

福島第一原子力発電所 陸側遮水壁設備の ブライン供給に係る運用の戻し及び電動弁動作試験の実施について

- 千島海溝津波襲来時における陸側遮水壁の冷媒（ブライン※）漏えいリスクの低減を目的として、陸側遮水壁設備に遠隔で操作ができる電動弁を追設し、2月15日、電動弁の単体動作試験および全体的な統合動作試験を実施するための準備段階として、陸側遮水壁全体へのブライン供給を停止したところ、プラント2系統の6BLK-H1ブライン配管の接続部からのブライン漏えいを確認しました。同日、ブライントankの液位低下が確認されていないプラント1系統について、ブライン供給を再開し、電動弁の動作試験を中止しました。
- その後、2月18日、念のための暫定的な対応として、運転中のプラント1系統から連結弁を介して、昨年温度上昇が確認された測温管150-7Sを含む停止中のプラント2系統の一部へ、ブライン供給を開始しました。
- さらに、2月21日、ブライン供給を停止しているプラント2系統エリアへのブライン供給を再開しました。

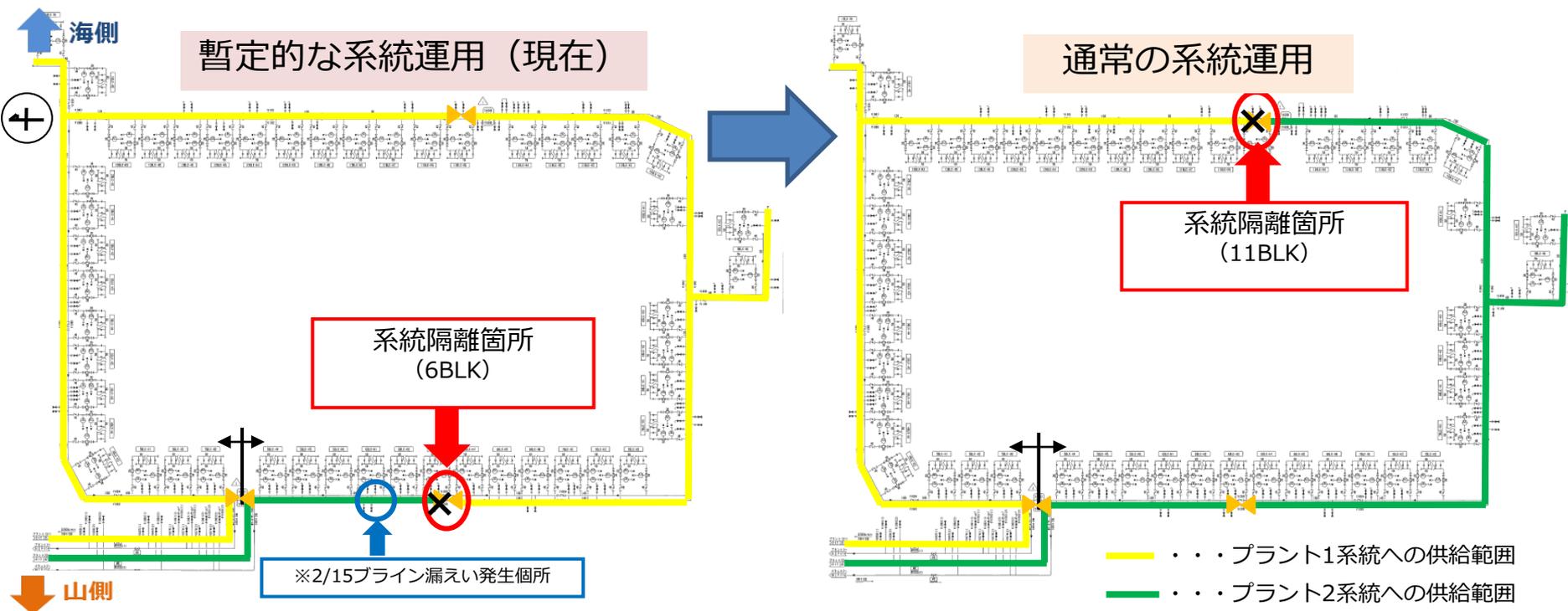
※ブライン：塩化カルシウム水溶液（降雪時、道路に散布する融雪剤と同じ成分）

[＜2022年2月21日迄にお知らせ済み＞](#)

- 2月18日以降、プラント1系統からのブライン供給範囲を拡大した暫定的な運用を行っています。その後、2月21日に全ての範囲へのブライン供給を行って以降、陸側遮水壁の効果を継続的に監視してきたなか、3月16日発生地震の影響も含めて、陸側遮水壁に特段の変化は見られていません。
- 一方、陸側遮水壁の効果を維持するため、通常、プラント1系統とプラント2系統に対して概ね均等にブラインを供給していることから、4月20日、暫定的な運用から通常の運用にブライン供給を戻します。
- 運用変更に伴い、一時的（11時間程度）に陸側遮水壁全体へのブライン供給を停止します。また、本対応にあたっては、ブライン供給ポンプの停止操作を慎重に行い、ブライントankの液位監視や陸側遮水壁設備のパトロールを実施しながら、トラブル発生を未然に防ぐよう万全に努めてまいります。
- また、運用を戻すためのブライン供給の停止時間を活用して、中止していた電動弁の単体動作試験および全体的な統合動作試験を、4月20日に実施します。

1. ブライン供給に係る運用の戻しについて

- 2月18日以降、プラント1系統からのブライン供給範囲を拡大した暫定的な運用（※左下図参照）を行っています。
- 2月21日に全ての範囲へのブライン供給を行って以降、陸側遮水壁の効果を継続的に監視してきたなか、3月16日発生地震の影響も含めて、陸側遮水壁に特段の変化は見られていません。
- 一方、陸側遮水壁の効果を維持するため、通常、プラント1系統とプラント2系統に対して概ね均等にブラインを供給していることから、4月20日、暫定的な運用から通常の運用（※右下図参照）にブライン供給を戻します。
- 運用変更に伴い、一時的（11時間程度）に陸側遮水壁全体へのブライン供給を停止します。また、本対応にあたっては、ブライン供給ポンプの停止操作を慎重に行い、ブラインタンクの液位監視や陸側遮水壁設備のパトロールを実施しながら、トラブル発生を未然に防ぐよう万全に努めてまいります。



2. 電動弁設置に伴う動作試験について

- 運用を戻すためのブライン供給の停止時間を活用して、中止していた電動弁の単体動作試験および全体的な統合動作試験を、4月20日に実施します。
 - 【単体動作試験】 電動弁に設置している開度計の調整及び現場の操作スイッチの操作による電動弁の開閉試験（対象弁：⑤⑥⑦⑧）
 - 【統合動作試験】 免震棟からの遠隔操作スイッチ及び現場の操作スイッチの操作による電動弁の開閉試験（対象弁：①～⑧）
- なお、プラント1系統の単体動作試験（対象弁：①②③④）は、2021年11月30日実施済みです。

